メンバー紹介！
アユ遡上調査、豊田式モンドリでガンバルぞ～

たかつき環境市民会議 水環境保全グループ
豊田　正樹

月日は巡りてまたアユたちの顔を楽しめる季節がやってきますね。去年の秋、卵から孵化し下流に下った赤ちゃんアユたちは元気に育ってくれたでしょうか？早く若々しい顔をみたいとウキウキしますね。そこで今年も本当の姿をとらえるべく「モンドリ付き簡易定置網」（自称：豊田式モンドリ）をセットしてその実数をカウントしてみようと思っています。これなら入った魚はその種類から数まで間違うことはありません。調査後はバスとギル以外はすべて放流します。

写真左は私の手づくりの豊田式モンドリです（写真右は私）。市販の魚とりに使う茶色の網（モンドリ）にゴミ集積場にあるような青いネットを組み合わせて作りました。青いネットの口は水道の塩ビパイプで枠取りしました。これを魚道のプールとプールの間の導水部に置きます。上流側をロープで流れないように固定し、下流側は導水部にピタッと貼り付ければ完了です。これでのぼってきた魚は、ごきぶりホイホイのように全部モンドリに入ります。魚の遡上が激しいときはモンドリはすぐいっぱいになるので20分に1回は引き揚げて水槽に移し、水槽で魚の種類と数を確認すればいいわけです。遡上の様子を目で見てカウントするより確実に観察できます。どうです、楽しそうでしょう。今年は一緒にやりませんか？

～第１０回クリーンアップ大作戦～

平成27年3月21日（土）10時～（小雨決行）

アユが遡上する前に年に一度の“芥川の大掃除”を実施します。清掃活動後は、ご飯とみそ汁のまかないつき。下の地図の①～④会場のうち、ご都合のいい場所に集合ください。

今年は 淀川の清掃 も実施します！

集合場所は　⑤大塚地区淀川河川公園 駐車場
⑥三島江地区淀川河川公園 駐車場
◆ 淀川会場は「まかない」はありません。

◆ 雨天中止の判断は、当日、午前7時に行います。情報は『芥川倶楽部ブログ』http://akutariv.blog85.fc2.com/ に掲載します。
◆ 作業用手袋･ゴミ袋は集合場所で配布します。
◆ ④の解散場所は津之江公園になります
◆ お車でのご来場はご遠慮下さい 。

平成２７年度事業のお知らせ

4月　唐崎わんど観察会（18日）
5月　高槻ジャズストリートinあくあぴあ（3･4日）
　　新川ヒメボタル観察会
6月　あくあぴあふれあいフェスタ（6日）
7月　定例総会（4日）
　　お父さんのための魚とり講座（２５日）
１０月　アユ産卵場を整備しよう！（１７日）
１２月　ミズヒマワリ駆除作戦（5日）
3月　芥川クリーンアップ大作戦（２６日）

～芥川でアユを見つけよう！　ボランティア大募集！！～

4年前に芥川大橋上流の堰に魚みちができて、平成24年１万匹、25年6,300匹、26年2,300匹ものアユが芥川をのぼっています。芥川倶楽部では、天然アユが高槻の中心部までたくさんのぼるようにするために、まずは調査を行っています。アユは時にジュジュジュと音をたて、くねくねっとのぼります。初めてのあなたにもきっと分かります！事前に説明会もあるので大丈夫。一緒にボランティアしましょう！

調査期間：5月１５日～7月１５日
　　９：００～１５：００
調査場所：芥川大橋上流の堰の魚みち
　　（高槻市芝生町2丁目地先）
調査方法：ボランティア調査員2名で魚みちを
　　通過する魚を目視でカウント
そ の 他：ボランティア保険に加入
　　（費用：主催者負担）
問 合 せ：茨木土木事務所　地域支援・企画課
　　（TEL:072-627-1121）

芥川倶楽部では、川づくりや各種イベントに一緒に参加してくれる方を募集しています。
イベント等の情報は芥川倶楽部ブログで、紹介していますので、ぜひご覧ください。
ブログ :http://akutariv.blog85.fc2.com/　　HP :http://akutagawaclub.web.fc2.com/
e-mail : akutagawa0726@yahoo.co.jp

～～～「芥川」はみんなの川です　「芥川」をきれいにしましょう　ゴミを捨てないようにしましょう　～～～

あなたと自然が触れ合える芥川の情報誌

芥川水辺だより

Vol.21
2015年
春号

芥川倶楽部設立10周年記念シンポジウム
～ もっと身近な川づくり ～ を開催しました！　2月14日

平成17年7月7日に「芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク～愛称：芥川倶楽部」を設立し今年で10年です。振り返るとここまでよくやって来たなあと感慨深いものがあります。

当日は、高槻市総合センター14階の会場が約100名の参加者で埋まり、熱気あふれるシンポジウムとなりました。

開会にあたり田口圭介代表から、「ネットワーク芥川倶楽部の10年の取り組みを結婚生活に例えると、ネットワークの誕生は、市民と行政が手を組み協働という新しい家での暮らしが始まり、次に新しい魚みちが出来てアユが遡上するようになり、仲間と共にわくわく、ドキドキした。これは子どもができて大きな喜びとともに子育てが始まったこと。そしてこれからの10年は、成長期の子どもを育てるように、活動を大きく育てる時期だと思う。」「今日はいろんな立場から、これまでの10年の課題についてのご指摘と今後１０年芥川でどんな川づくりが展開出来るのかアイディを頂き、今日の成果をみなさんと共有できるようにしたい。」とのあいさつがありました。

シンポジウムの内容は次のページでご紹介します。

平成27年(2015年)3月 発行　芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク～愛称：芥川倶楽部
事務局：NPO法人芥川倶楽部　ホームページ　http://akutagawaclub.web.fc2.com/　ブログ　http://akutariv.blog85.fc2.com/
問合せ先：　あくあぴあ芥川　TEL　072(692)5041
●芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワークは河川協力団体（国（近畿地方整備局）第２号）に認定されています●

第1部 芥川倶楽部のこれまでの10年
～芥川の川づくりの原点はここにあった、今はここまできている～

大阪府茨木土木事務所の勝本地域支援・防災グループ長の司会のもと、高槻市都市創造部の新井進部長代理、芥川倶楽部アドバイザーの大阪工業大学綾史郎教授、田口代表の3人がこれまでの取り組みを○、△、×で評価しつつ意見交換を行いました。

きっかけ

田口：きっかけは、たかつき環境市民会議水環境保全グループが平成16年に芥川大橋下流で見つけたアユだった。同じころ、行政と有識者の調査でもアユを発見した。それではアユをシンボルに多様な生き物がすめる川づくりを一緒にやろうとなった。

新井：芥川は市の総合計画でシンボル軸に位置付けられている。平成9年に河川法が改正され河川整備の目的に治水利水に加え環境が追加された。そんな時に多摩川でアユ遡上のニュースを見た。そこで市民、行政が目に見えて協働できるプラットフォームとそれを企画運営する企画会議を作った。

魚みちについて･･･○一つ、△二つ

綾：土のうによる魚みちなどの市民活動が国交省を動かして落差3mの魚みちが出来たことは大きく評価できるので○。

田口：△の理由は、５つも魚みちが出来たのは○だが、摂津峡までに残る落差に魚みちをつくりたいし出来た魚みちも改良の余地がある。もう一つは1号井堰にアユがのぼった瞬間の感動を子どもたちにも感じさせてあげたかった。次の魚みちでは最初から子どもたちに参加してもらいたい。

勝本：私も一言。いろんな団体が参加して土のうでつくった魚みちに感動した。この感動は新聞記者や国にも伝わり、全国紙に載って首相官邸のHPにもアップされた。活動・成果・感動の連鎖が大切。

津之江公園について･･･○一つ、△二つ

綾：○です。淀川は1970年代からゴルフ場などが出来てきれいになったけど川の生き物は住みにくくなった。そこで生き物にやさしい公園として一番に自然再生されたのが津之江公園だった。

新井：△です。津之江公園は整備後に順応的な維持管理を市民と共に行う予定だったがその仕組みが確立されていない。今後は市民団体とやっていくことを考えていくべきだと思う。

芥川緑地資料館（あくあぴあ芥川）･･･○三つ

田口：ネットワーク設立当初は世話役の行政が事務局の役割を担っていたが、そろそろ市民サイドも自立しなければということで平成20年にNPOを立ち上げネットワークの事務局を担うことになった。そのNPOが平成21年度から芥川創生基本構想のなかで交流拠点と考えられていたあくあぴあ芥川の指定管理を受託した。

新井：市としても、選定方針に基づき市民協働ができるなら公の施設の管理をNPOに任せたいとの思いから、芥川創生を進める上でキーステーションとなるあくあぴあ芥川からの情報発信に期待して芥川倶楽部となった。また昨年6月には博物館に指定されたので今後は川ごと自然博物館を目指して欲しい。

その他にも、ネットワークの一員であるたかつき環境市民会議水環境保全グループを中心に、関西大学や摂南大学の学生の協力を得て行っているミズヒマワリの駆除活動、毎年アユ遡上前の3月末に行う芥川クリーンアップ大作戦も大きな成果であるとして、意見を交わしました。

第2部　川づくりのこれからの10年
～こんな川づくり、芥川でもやったらいいんちゃう～

第2部は、芥川倶楽部アドバイザーで、兵庫県立人と自然の博物館の中瀬勲館長がコーディネーター。筑波大学大学院博士課程の坂本貴啓さん、NPO法人水・環境ネット東北の高橋万里子専務理事、あくあぴあ芥川の山本館長がパネラーです。

坂本：全国109水系全て周った。市民活動が川づくりにどれだけ貢献しているかを研究している。芥川の活動量は年間2,366（人・時間）で調べた195団体中25番目。特徴は、春、夏、秋に活動のピークがあること。普通は川に入りやすい夏だけ。春のクリーンアップや秋のミズヒマワリ駆除があるからだと思う。また、働く世代の元気よさ、ネットワークを支えるNPOの存在も特徴の一つ。これからの10年に向けては、高校生リーダーを作るなどもっと小中高生を巻き込む、アユがテーマの活動団体との交流、源流の碑の建立、頑張った人に芥川賞の授与なども検討されてはどうか。

市民の活動量＝人数×時間×回数

×

×

春
夏
秋
冬

高橋：私も提案をいくつか。川が舞台の活動は様々なことが出来る。まずは地元を知ること！歴史的事象など芥川らしさを見つけられたら多様な展開が可能になる。もう一つは、芥川の水はどこからきたか？雨が降って山から川、海へ水は循環する。芥川の水が減った原因は何か？みんなで水を溜める工夫をする。雨水タンクや雨水浸透桝も水循環をテーマに環境学習してはどうか。それから川づくり継続の秘訣は何と言っても「楽しく学ぶ」だと思う。

地元を知る

地元のお宝を探す！
自然環境 歴史的事象
神社仏閣 暮し 食べ物
芥川らしさ　高槻らしさ

山本：活動の担い手となる若手後継者を育成することを基本に考えながら次のキーワードでこれまでの10年を次につなぎたい。①プランをみんなで議論　②摂津峡までつながる魚みちづくり　③生息・生育環境づくり　④広がりのある活動　⑤女性が元気　⑥多世代連携特に、ハグロトンボ調べ隊では、参加した子どもたちの中からリーダーが育ってきた。それぞれの取り組みから連続的に活動の担い手が出てきてくれると嬉しい。また昔のころを思い出し、多様な生きものが生息できる瀬と淵の復活にも取り組みたい。

最後に、コーディネーターの中瀬先生が、「『地元を知る』『楽しく学ぶ』『高校生リーダー』『川ごと自然博物館』などキーワードがいくつも出てきた。これを機に高槻市でも生物多様性戦略をつくってはどうか。次の10年に向けて、みなさん一緒に頑張りましょう」と締めくくられました。

あくあぴあ芥川博物館化記念事業が開催されました　11月30日

芥川の川づくりの活動拠点である「あくあぴあ芥川」が博物館相当施設になったお祝いのイベント「自然の中の宝物　ふしぎと出会う博物館」が盛大に開催され、約1,400人の市民が集まりました。あくあぴあ会場は青空のもと広場のふわふわはにたん、工作教室が大賑わい。

午後からは講演会も。高田主任学芸員の「博物館ってなあに」では博物館になって標本の保存、調査研究等が保証され未来の子どもたちにも高槻の自然をしっかり伝えられるようになったと紹介がありました。

ゲッチョ先生こと盛口満先生の講演では「ひろいものはたからもの」と題して、いろいろなものを拾っていくと、初めは何なのかわからなくても、そのうち何かがわかってくる」と話しがありました。さらに、ゲッチョ先生となにわホネホネ団・西澤真樹子団長、高田さんの対談では「博物館は医者のようなもので、盛口先生は開業医、あくあぴあ芥川は地域診療所、大阪市立自然史博物館は大学病院のようなもの。それぞれに役割があり得意分野がある」とあくあぴあ芥川の役割を分かりやすく説明されました。

講演会の後はケンタッキーのオリジナルチキンから骨格標本をつくるワークショップ。チキンを食べたあと、その骨を用いて標本を作るということで大人気。家族で楽しみながら学ぶことができました。

ミズヒマワリ駆除作戦　12月6日

今年も、芥川倶楽部や、関西大学ボランティアセンターと摂南大学エコシビル部の学生を含む46人が参加し、芥川大橋付近で特定外来生物ミズヒマワリの駆除イベントを行いました。

上流側は、昨年と同様に、川の中にボートを浮かべ胴長靴をはきながら、冷たくしびれる川の中で頑張りました。また下流側の陸地側は、地中深くまで根を張っていて、掘り起こすのに苦労しました。駆除したミズヒマワリは35袋、175kgにもなりました。みんさん、お疲れさまでした。

なお、今年度もイベント以外に有志によるパトロール7回、駆除活動9回を実施しました。地道な市民の努力が芥川の環境を守っています。

たかつきエコフェスタ2015　1月23,24日

高槻市総合センター展示ホールで恒例のエコフェスタが開催されました。芥川倶楽部は、たかつき環境市民会議水環境保全グループと一緒にパネルと水槽を展示し、活動をPRしました。魚の名まえ当てクイズの参加者は100人を超えました！一生懸命にのぞき込む子どもたちのまなざしがとっても可愛かったです。